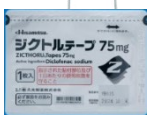
Palliative Care Communication News 第35号 2026年6月 発行 35
緩和ケア通信
発行元 ◆加古川中央市民病院 緩和ケア室 連絡先 ◆緩和ケア室

「ジクトルテープ」は普通の湿布と何が違うの？



今回は、一見「普通の湿布」に見えて、実は全く中身が異なる「ジクトルテープ」について解説します。



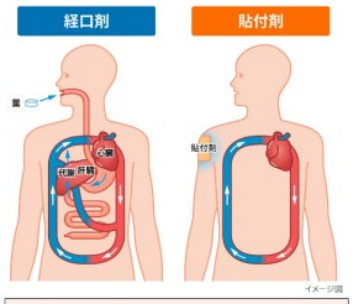
1. 最大の違いは「全身」に効くこと！

一般的な湿布（ロキソニンテープなど）は「貼った場所」の炎症を抑える局所作用型です。
一方、ジクトルテープは皮膚から吸収された成分が血流に乗り、全身の痛みに効く**全身作用型**の薬剤です。

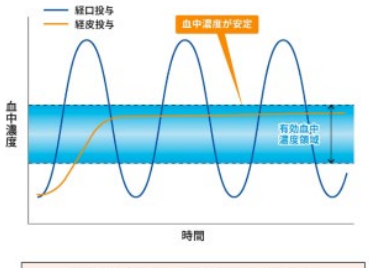
「貼る飲み薬」だとイメージしてください

◆全身製剤　経皮吸収により薬物が血流に到達することで全身への効果が期待できる

全身製剤の薬物代謝経路



経口投与後と経皮投与後の血中濃度の推移（イメージ）



◆ジクトルテープの投与が適していると考えられる症例

- 毎日複数枚の湿布を貼っている
- 疼痛部位が多い
- 内服薬を増やしたくない
- 内服薬の効果の切れ目を訴える
- 既存の湿布薬で効果不十分
- 自分で疼痛部位に貼れない
- かぶれが心配だが湿布を使いたい



2. 医療スタッフが押さえておきたい比較表



嚥下困難な患者さんや胃腸障害が心配で内服薬（NSAIDs）を避けたい患者さんにも適しています

特徴	ジクトルテープ75mg	一般的な湿布薬（局所用）
作用機序	全身循環を介して鎮痛効果を発揮	貼付部位の局所に浸透して作用
主な適応	各種がんの鎮痛、腰痛症、肩関節周囲炎など	変形性関節症、筋肉痛、外傷後の腫脹など
貼付場所	どこでもOK（胸・腹・背中・上腕など）	痛い場所に直接貼る
即効性	血中濃度安定まで約1週間かかる	比較的すみやかに局所に作用する
1日の枚数	通常は1～2枚（最大3枚まで）	1～2枚（製品による）





3. 患者さんへの指導ポイント



◆**「痛いところに貼らなくて大丈夫ですよ」**
吸収の良い胸や背中、お腹などに貼るよう伝えてください。痛みのある部位にこだわる必要はありません。

◆**「毎日貼る場所をずらしましょう」**
皮膚のかぶれを防ぐため、昨日は右腕、今日は左腕、といったようにローテーションするのがコツです。

◆**「勝手に飲み薬を増やさないでください」**
全身に作用するため、市販の痛み止めや他の内服NSAIDsと併用すると副作用（腎機能低下や胃粘膜障害）のリスクが高まります。

ジクトルテープは、2022年に腰痛症などの適応が追加され、活用の幅が広がっています
内服が難しい高齢者や、仕事中に薬を飲むのが難しい方への強力な味方になりますね







＜緩和ケア外来＞
問い合わせ：緩和ケア室
※外来通院中の患者が対象
※鎮痛薬等の薬剤の相談、心理面、生活支援などをサポートしています。

＜PCU入院＞
※PCU入院の相談・依頼
※PCU入院依頼は、カルテセット展開⇒共通⇒★緩和ケア 指示・処方⇒PCU申込みを展開

＜緩和ケアチーム※一般病棟入院中の患者が対象＞
問い合わせ：がん看護CNS
※症状緩和、心理面のサポートなどに対応しています。
※介入依頼は、ナビゲーションマップ⇒カルテ2⇒チーム 医療⇒緩和ケア介入依頼よりオーダーを入力
注）緩和ケアチーム介入依頼は、主治医の許可が必要です。